

国際ロータリー第 2790 地区
東金ロータリークラブ会報
 2007年年度19年3月20日 第48巻 第34号 通巻第2322号

2006-07年度 国際ロータリーのテーマ
 **率先しよう**

R I 会 長 ウィリアム・ビル・ボイド
 ガバナー 白鳥 政孝
 ガバナー補佐 菅井 直秀
 会 長 秋葉 芳秀
 幹 事 長尾 邦俊
 クラブ広報委員長 山本 忠司

第 2322 回例会 3 月 20 日 12:30 点鐘 会場 例会場

今週の合唱 = 手に手つないで

開会宣言と点鐘 お食事 会長挨拶 幹事報告 委員会報告
 卓話 松戸 光夫 様 出席報告とニコニコBOXの発表 閉会宣言と点鐘

***** 前回の記録 (3月13日) *****

会長挨拶 秋葉 芳秀 会長

3月になっての寒さが続きますが、下旬には「東金桜まつり」が待っております。気象庁のソメイヨシノの開花予想では、静岡県がきょう13日に蕾みがほころぶことになっているそうです。九州鹿児島よりも静岡の桜の方が早い



のは不思議な現象です。桜は夏に花芽をつけ、冬に刺すような冷気に身をさらした後、気温が20度に近づくと開くそうです。たまたま静岡がその条件に合致したのでしょうか。将来、技術革新により、この開花システムを自在に操作出来るようになるのでしょうか。

4月10日の横芝RCとの合同例会の卓話者としてお願いしている倉嶋厚氏は、この分野の専門家です。世界的な天候異変の原因であるエルニーニョのこと、地球温暖化への国レベル、生活レベルでの対応策、私たちの日常生活と天気との関わりなど、理学博士であり気象エッセイストである倉嶋氏の卓話に興味が湧きます。

今から10年程前、完璧主義者の倉嶋氏は、末期ガンの妻が入院していても仕事に追われていたこともあって、妻の死亡後は自責の念に襲われ、強度のうつ病になったそうです。NHKのニュース番組

で人気気象キャスターだった面影は消え、気が付いて死を望みマンション屋上に何度も足を運んでいたそうです。地獄のような大変な経験を経て、今、倉嶋氏は人生70%主義を勧めております。強い責任感を持った完璧主義者ではなく、普段は中途半端であっても、時にキラリと光る何かを表現できれば良いではありませんか、と自分の思いを吐露します。人生の大先輩としての倉嶋氏のお話は、我々にとつて貴重ものを気づかせてくれます。

倉嶋氏は40冊以上の本を出版しております。お奨め本として「癒しの季節ノート」と「やまない雨はない」の2冊を挙げて戴きましたので、東金と横芝の両クラブ全員に用意しました。なお、会場となる新千葉CCの席は余裕があります。ご家族や友人知人、そして新入会員候補をお連れ下されば、こんなに嬉しいことはありません。

幹事報告 市東 弥寿雄 副幹事

東金RC 来週 3月27日例会があります。

- 1、地区大会の記録の最終ページにDVDが添付しておりますのでパソコンで開いて下さい。
- 2、米山奨学生(呂 軍)ロ グン君 千葉大学在籍 国籍 中国男性 世話クラブの依頼がまいりました。小林 信雄 会員にお願いいたしました。
- 3、八日市場RCより選考をいただきました。
- 4、横芝RCより3月例会のお知らせをいただきました。
- 5、白鳥 ガバナーより北朝鮮の拉致被害者支援の要

請がありました。

- 6、地区 WCS ベトナム支援金贈呈式参加の案内が参りました
 4月3日~4月7日まで 参加費 130,000~180,000円申込み締切3月20日です
- 7、第6分区 親睦家族ゴルフ大会の登録案内が参りました
 平成 19年 5月 11日(金)東急大多喜城ゴルフクラブにて、登録料19,000円
 (キャディ・カート付き) プレイフィー・朝食 昼食 パーティーフィー・賞品代込み
- 8、千葉県さくらの会事務局より 19年度通常総会と視察研修会の案内が参りました
 平成 19年 3月 27日(火)千葉駅前 NTT 千葉支社前 9時集合 参加費 1人4,000円

卓話 三宅 英雄 会員

『房総の畜産』

千葉県は全国でも有数の畜産県です。
 平成 18年 2月現在、酪農は乳用牛の飼養頭数 4万 7千頭で全国第3位、乳の生産量で第3位、そして、養豚では飼養頭数 55万 8千頭で第4位、私が関係します養鶏では飼養羽数 900万羽で第1位、これを生産額で見ますと総合で全国第1位となり、県内農業の重要な位置を占めております。



首都圏の人口急増地域にあつては、きわめてまれな状況です。これだけ家畜・家禽飼養密度が高いにも関わらず、家畜は概ね、人工制御された畜舎内で管理されているため、牛や豚、そして鶏の姿を見かけることは皆無に等しいと存じます。

さて、このように、大畜産県となったのは何故でしょうか。

それは房総の牧(まき)の発達であります。馬は主に軍馬として用いられた関係から各地に牧が存在しましたが、稀に、牛の牧もありました。奈良時代には、牛の乳の水分を蒸発させて造った「蘇(そ)」を宮廷に納める制度であります、貢蘇制度が確立して、安房、上総、下総の各地からも、この乳製品「蘇」を貢納しておりました。

桃山時代の頃には、北条氏が千葉氏に命じ、東葛飾地方を中心とした小金牧、印旛地方を中心とした佐倉牧の両牧を開いております。

また、戦国時代 170年間にわたり、安房地方に君臨した里見氏が 10世紀に著された書物にも出てく

る古い牧場を嶺岡牧として再興し、軍馬の養成や保養に用いております。

しかし、これら3箇所の牧は、徳川家康が江戸に入国すると共に、召し上げられ徳川幕府の直轄牧となってしまうます。

その後、8代将軍吉宗のとき、これら3牧に大きな変化が現れます。吉宗は馬の改良に熱心であり、小金・佐倉の両牧には輸入馬や国内の優良馬を導入し、馬の改良を図ると共に、嶺岡牧には、乳用としてインドから導入した白牛の雄1頭、メス2頭を放牧して、白乳酪の製造を行い、日本酪農の基を作りました。今日、このことから嶺岡が「日本酪農発祥の地」となっております。今日でも、安房地方で酪農が盛んなのは、当時、嶺岡牧で牛が増殖しすぎ、廃用になった牛を近隣農家に譲渡したため、乳牛に対する親しみが残り、その伝統が今日まで及んでいると考えております。

嶺岡で放牧・増殖された白牛は、順調に増殖されていったのですが、途中、近親交配の弊害もあり、再度、白牛を輸入、また、和牛との交配等により、この困難を切り抜けております。この結果、寛政時代に入ると、この乳から作った「白牛酪」は將軍家のみならず、重臣、そして、広く一般市民にも販売されるようになりました。これらは、主に、医薬用として用いられておりました。

次に養豚、養鶏と話が続きませんが紙面の都合で割愛させていただきます。



結婚祝い ありがとうございます

・・・三宅 英雄 会員

写真いただきました ありがとうございます

・・・鈴木 康道 会員

ご奉仕 ・・・並木 孝治 会員

出席率

会 員	出席者	出席率
34名	26名	76.47%
コインBOX	2	65.0%

欠席連絡は、前日までに事務局宛に、電話、FAX、Eメールにて、お願い致します。
 (緊急の場合は当日10時までに)
 メーキング先への事前連絡もお忘れなく
 電話 0475-52-1101 FAX 0475-55-5766
 E-mail: tougare-rc@2dcm.re.jp